特別の教科　道徳　学習指導案

令 和 ５ 年 ７ 月 １ ２ 日
墨 田 区 立 両 国 小 学 校
第３学年１組　児童数２９名
指導者　　植木　洋

墨田区教育研究会道徳部研究主題
豊かな心を育む道徳科　～対話的な学びの実現を目指して～

１　主題名

感動する心　　Ｄ－感動、畏敬の念

２　教材名

「おじいちゃんの絵」（出典：「令和元年度　道徳指導資料集 第３１号」全国小学校道徳教育研究会）

３　主題設定の理由（指導観）

（１）ねらいとする道徳的価値について

日々の科学技術の進歩は目覚ましいものがある。このことによって，私たちは物質的には豊かで快適な毎日を送ることができるようになった。このことから科学が万能であるかのような錯覚をしかねない今日の社会においては，科学の発展を期待し理性の力を信じることと同時に，人間の力では到底説明することができない美への感動や，崇高なものに対する尊敬や畏敬の念をもち，人間としての在り方を見つめ直すことが求められる。

自然が織りなす美しい風景や人の心の奥深さ，清らかさを描いた文学作品などに触れて素直に感動する気持ちや，人の心の優しさや温かさなど気高いものや崇高なものに出会ったときの尊敬する気持ちなどを，児童の心の中により一層育てることが大切である。そのためには，学校における自然体験活動や読書活動など，美しいものや気高いものなどに出会う機会を多様に設定することが求められる。

一方，様々なメディアが発達した昨今，巧みな映像などが私たちに感動を与えてくれることも少なくない。これらも美しいもの気高いものから感動を求めようとする人間の思いの表れである。自然のもの，人工のものと区別するのではなく，美しいもの，清らかなもの，気高いものに接したときの素直な感動を大切にすることが求められる。

■第３学年及び第４学年

この段階においては，自然や音楽，物語などの美しいもののみならず，人の心や生き物の行動を含めた気高さなどにも気付くようになる。そのことを通して，美しいものや気高いものに意識的に触れようとする態度を育てることが大切である。こうした体験を積み重ねることによって，想像する力や感じる力がより豊かになっていく。自然の美しさや気高いものに触れて，素直に感動する心を育てていくことが求められる。

指導に当たっては，感性や知性が著しく発達する段階であることに配慮して，児童が自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心をもっている自分に気付き，その心を大切にし，更に深めていこうとする気持ちを高めるようにすることが重要である。　（「小学校学習指導要領解説　特別の教科 道徳編」より抜粋）

この道徳的価値「感動、畏敬の念」は、すべての道徳的価値の基盤となるものであると考える。どんな道徳的価値をねらいとした授業においても、その道徳的価値に心が揺さぶられることが、授業を展開するきっかけとなる。

道徳的価値「感動、畏敬の念」を指導するに当たって、児童に「心」を意識させることが最も重要なことである。児童が「心」があることを否定してしまうと、この道徳的価値の授業は成立しない。そこで、本時の導入に「心」を意識させる学習活動を取り入れた。「心を向ける」「心が動く」といった表現を使い、児童に「心」を強く意識させることから授業を始めることとした。

また、本時の導入・教材提示の際に、「小学校学習指導要領解説」に具体的に記されている美しいものや気高いものの対象である「自然」「音楽」「物語」「人の心」に触れる機会を意図的につくっている。

（２）児童の実態（児童観）

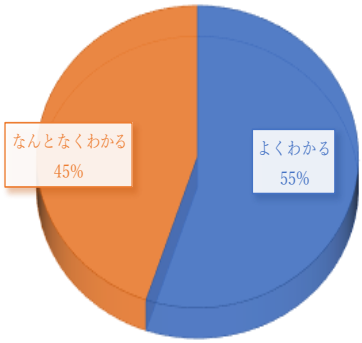
本授業の道徳的価値「感動、畏敬の念」に関する質問紙による調査を行った。以下がその結果である。

標本数２９　（第３学年１組　児童数２９名）　　調査日　令和５年５月１２日

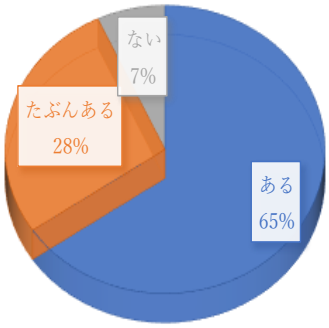
○「美しい」という言葉を聞いて、なにを思い浮かべますか。

宝石・宝物（７）　空や太陽（６）　山や海（３）やさしさ・心（３）　笑顔（３）少数…蝶、光

○「感動」の意味がわかりますか。



○感動したことがありますか。



※「よくわからない」という回答はなかった。

○どんなことに感動しましたか。（「感動したことがない」と回答した児童２名以外２７名。複数回答可）

映画（１４）　本（８）　自然の景色（６）　卒園式（３）

６年生を送る会の６年生の歌や合奏（３）　絵（２）　少数…　水族館　鉄道の連結

「美しい」という言葉から連想するものとして、「宝石」などの光り輝く物質的な物を回答する児童が一番多かった。それに続いて、「空や太陽」といった自然現象や「山や海」といった自然を、全体の約３分の１の児童が回答している。また、全体の１割程度の児童が、本授業で活用する教材の内容に関連した「やさしさ」や「心」と回答している。

全員が、「感動」という言葉の意味がわかる（よくわかる・なんとなくわかる）と回答している。ただ、聞き取りでは、泣くこと＝「感動」と捉えていて、涙が出なければ「感動」ではないと考えている児童が多いようである。低学年の指導内容のキーワード「すがすがしい心」の延長線上に「感動」があることを日常的に意識して指導にあたりたい。

「感動したことがないと思う」と回答した児童が２名いた。本時の自分自身の生活を振り返る学習の場面において、優先的に机間指導を行い、支援にあたる。

「感動したことがある」と回答した児童の半数以上が、友情や家族の愛情をテーマとした映画を観たことや、本を読んだことを挙げている。それに続いて、約２割の児童が、山や海などの自然の景色を見たことを挙げている。

「美しいもの」から人の心の気高さを連想する児童が全体の１割程度であったが、映画や本を通して人の心の気高さについて感動したことがあると全体の半数の児童が回答している。人の心の気高さに感動したことを基に道徳的価値の理解を図り、それを糸口として、感動する対象を広げていきたい。

（３）教材について（教材観）

ある日、ふとしたことから、玄関に飾られている風景画は、祖父が自分のために描いてくれたものであることを、みさとは母から聞かされる。病気を患い、筆を持つことさえ儘ならぬ祖父が、孫のみさとを想い描き上げた絵。その絵は、祖父の故郷の草原の風景画であった。祖父はどんな気持ちでその絵を描いたのか…。記憶にない祖父の姿や想いを想像し、みさとはあらためて心を強く打たれる。

本教材「おじいちゃんの絵」は、「感動、畏敬の念」をねらいとした教材ではあるが、「家族愛、家庭生活の充実」や「生命尊重」といった道徳的価値との関わりが極めて深い。本時では、祖父が孫を思う強い気持ちや行動（孫への愛情）を「気高さ」として捉えている。

また、本教材は、「小学校学習指導要領解説」に具体的に記されている美しいものや気高いものの対象をその構成要素として取り入れている。祖父が孫に見せたかった風景を「自然」に、そのストーリーを「物語」に、祖父の孫への愛情を「人の心」に、そして、教材提示の際に活用するＢＧＭを「音楽」になぞっている。

４　研究主題に迫るための工夫

研究副主題「対話的な学びの実現を目指して」を受けて、「対話的な学び」に関して、「児童自身との対話」、「児童間での対話」、「教師と児童の対話」の３つの視点を設けて、以下の指導の工夫を提案する。

（１）児童自身との対話（書く活動の工夫）

書く活動は、児童が自らの考えを深めたり、整理したりする機会として重要な活動である。ここでは、時間を確保し、児童が自分自身とじっくりと向き合えるようにしたい。学習シートとして、児童が書きやすいことと思考の自由度を上げることに配慮し、吹き出し形式とシンプルな罫線のみのものを活用する。

（２）児童間での対話（話合いの工夫）

児童間での話合いは、児童相互の考えを深める中心的な学習活動である。考えを出し合う、まとめる、比較するなど目的に応じて効果的に話合いが行われるように工夫する必要がある。本時においては、多くの考えを出し合い、自分の考えを深めることを目的として、小グループでの話合いを取り入れる。進め方としては、一斉に発問を行って個々に自分の考えを概ねつくらせたうえで、小グループでの話合いに臨ませる。

また、ペアや小グループの形をとらない全体での話合いも、指導者が進行役として行われる大切な「児童間の対話」であると考える。

（３）教師と児童の対話（発問・問い返しの工夫）

祖父の内心を考えさせる場面では、絵を描いている祖父の様子（たたずまい、表情、発している言葉など）を想像させる。その際に、一連の問い返しの発問を行うことで徐々に祖父の内心に迫っていく工夫である。児童の頭に浮かんでくる様子は、直接的な体験で見た人々の様子（実際に体験したこと）や、間接的な体験で見た人々の様子（テレビ番組や映画などで見たこと）を基にしたものであろう。ここでの想像は、一人一人の児童の体験を色濃く反映する。児童は、見たことのない祖父を思い描く主人公のみさとの立場で想像を膨らませて、自らの体験と関わらせて考えを深めていくこととなる。

「絵を描いているおじいちゃんの様子を想像してみましょう。」

◎一連の発問の例

・どんな格好で絵を描いていますか。（たたずまい）
→どんな表情をしていますか。（表情）
→何か話していますか（発している言葉）
→心の中でどんなことを思っていますか。（内心）

※児童の発言において強調された言葉に着目して、共感的に児童の発言を受けとめる。「もう少し詳しく説明してみましょう」というように、考えを明確にしたり深めたりできるような切り返しや問い返しの発問を必要に応じて行う。

5　本時の指導

（1）ねらい

美しいものや気高いものに感動する心を育てる。

（2）学習指導過程

	学習活動と主な発問・児童の反応	指導上の留意点　評価◆
導入	1　「心」のがあることを意識する。 ○この音楽を聴いて、どんな感じがしましたか。 ○この絵を見て、どんな感じがしましたか。	・教材中の一枚絵と BGM を活用し、「心」を意識させる。 ・道徳的価値、教材への導入を図る。
展開	2 教材「おじいちゃんの絵」を読んで話し合う。 ① みさとになって、絵を描いているおじいちゃんの様子を想像してみましょう。 どんな格好で絵を描いていますか。⇒どんな表情をしていますか。⇒何か話していますか。⇒心の中ではどんなことを思っていますか。 想像したおじいいちゃんの心の中について話し合ってみましょう。 ・みさとを喜ばせたい。　・みさとのために元気になりたい。　・みさとのためにがんばる。 ・つらいけれども…　・死んでしまうかも… **② みさとさんは、おじいちゃんの絵を見てどんなことを思ったでしょうか。【中心的な発問】** ・とてもきれいな所だな。きれいな絵だな。 ・この場所におじいちゃんと行きたいな。 ・体がつらいのに描いてくれてありがとう。 ・そこまで思ってくれて、うれしいな。 ・心が伝わってくるから、美しいな。	・主人公を紹介し、教材を読む視点を示す。 ・教材提示に BGM を活用する。 ・おじいちゃんが絵を描いている様子を想像させる。 ・おじいちゃんの様子から内心に迫る。 佇まい⇒表情⇒会話⇒内心**【指導の工夫(3)】** ・小グループで話し合わせ、多くの考えに触れさせる。**【指導の工夫(2)】** ・数名の児童に考えを発表させる。 ・一枚絵を掲示し、場面を捉えやすくする。 ・吹き出し形式のシートを活用し、書く活動を通して考えを深めさせる。**【指導の工夫(1)】** ・数名の児童に考えを発表させる。 ◆一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。（発言・学習シートの記述から）
	3 教材で深めた道徳的な価値を基に、自分自身の生活を振り返る。 ○自然、音楽、物語、人の心、生き物の行動･･･感動したことを思い出してみましょう。 ・旅行した時に見た海に夕日が沈む様子。海と夕日が大きくて色がとてもきれいだった。 ・テレビ番組で人命救助のニュース。隊員が命がけで人を救っていることに感動した。 ・映画を観た時のこと。主人公が自分のことより友達のことを一番に考えて勇気を出して行動したことに涙が出てきた。	・中心的な発問で活用したシート裏面の罫線のみのものを活用させる。**【指導の工夫(1)】** ・体験した時に感じた気持ちを詳しく思い起こさせる。 ・机間指導を基に意図的指名を行い、数名の児童に発表させる。 ◆ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。（発言・学習シートの記述・表出する児童の姿から）
終末	4 感動する心の大切さを学級全体で共有する。	・児童の発表を受け、感動する心の大切さについて簡単に補足して、学習をまとめる。

６　板書計画

心

絵をかいている
おじいちゃん

・よろこばせたい。
・元気になりたい。
・がんばるぞ。

・しんでしまうかも…。
・くるしいけれども…。

おじいちゃんの絵

感　動

自然　　音楽　　物語
（本や映画）　　人の心
生き物の行動

みさと　（わたし）

みさとさんは、おじいちゃんの絵を見て
どんなことを思ったでしょうか。

・きれいなところだな。
　きれいな絵だな。
・おじいちゃんと行きたいな。
・体がつらいのに、ありがとう。
・思ってくれて、うれしいな。
・心がつたわるから美しい。

７　教材提示時のＢＧＭ

教材提示を行う際に活用するＢＧＭは、カナダ出身の音楽家であるアンドレ・ギャニオンの楽曲である。曲名は「ＢＯＢＩＣＨＯＮ」、日本語訳は「溢れる愛のなかでも」となっている。愛情というものを音にすれば、たぶんこのような感じになるのであろうと思える曲である。楽曲の美しさやテーマと、教材中の気高いもの（祖父が孫を思う愛情）とが効果的に融合することを期待して、ＢＧＭとして選曲した。

８　学習シート（原寸大）

みさとさんは、おじいちゃんの絵（え）を見て
どんなことを思ったでしょうか？

みさとさんの気持ちになって
書いてみましょう。

9　教材「おじいちゃんの絵」

おじいちゃんの絵

わたしの家のげんかんには、りっぱながくぶちに入った美しい絵がかざってありました。かぎりなく広がる草原の絵。それは、わたしが大好きな絵でした。

学校から帰ってくると、わたしは、かならずその絵を見ました。学校で友だちとけんかをしたり、いやなことがあったりしても、その絵を見ると落ちついた気持ちになれたのです。何かはわからないのですが、とてもあたたかいものが、わたしの心につたわってくる感じがしました。

ある日のこと。

「ただいま。」

学校から帰ってきたわたしは、あれっと思いました。いつものところに、大好きな絵がなかったからです。

わたしが帰ってきたことに気づいたお母さんは、いそいでげんかんにやってきました。

「そうじ中に、うっかり絵を落としてしまったの。そのとき、がくぶちがこわれてしまって。ごめんね。この絵は、みさとの大好きな絵だものね。」

お母さんの手には、がくぶちからはずされた絵がありました。ちらりと見えたがくぶちのない絵は、色あせているように見えて、なんだか悲しくなってしまいました。

そんなわたしに、お母さんは、やさしい顔でなつかしそうに話してくれました。

「この絵はね、みさとが生まれたことをきっかけに、おじいちゃんがかきはじめた絵なの。みさとはまだ赤ちゃんだったのだから、おぼえていないわよね。そのころのおじいちゃん、体の調子がよくなくてね。とてもつらそうだった。でも、ふしぎね。この絵をかいているときのおじいちゃんは、しあわせそうに見えたわ。おじいちゃんがなくなったのは、この絵をかきおえてすぐだった。この絵の場所、ここは、おじいちゃんが生まれたところの近くなんだって。とてもきれいなところでしょう。元気になって、みさとをつれていってあげるんだって、もういくらも動かなくなってしまった手で、いっしょうけんめいにかいていたのよ。」

なつかしそうに話すお母さんの目には、うっすらとなみだがうかんでいました。

「がくぶちをつけたのは、おじいちゃんだったから、お母さんも、さっき気がついたのよ。みさと、ここを見てごらんなさい。」

と言って、お母さんは絵のすみを指さしながら、そっとわたしに絵を手わたしてくれました。

がくぶちでかくれていた絵のすみには、ふるえた小さな文字で『**みさとのために、いっしょうけんめいに かいたよ　おじいちゃんより**』と書かれてありました。

おじいちゃんの書いた文字を見たとたん、なみだがあふれてきました。わたしには、手にしたおじいちゃんの絵が、とてもとても美しく見えました。